学校法人 兵庫医科大学

広報

兵庫医科大学 兵庫医療大学

vol.216
2012年6月号

兵庫医科大学 開学40周年

開学40周年座談会

国家試験について

科学研究費等交付内定一覧

留学成果報告

入試・オープンキャンパス日程

看護の日記念行事

平成23年度決算

vol.216
～2012年6月27日発行～

CONTENTS

01 【特集】開学40周年座談会
「兵庫医科大学の思い出とこれから」
05 最近の主な出来事

■兵庫医科大学
06 第106回 医師国家試験結果について
07 平成24年度 科学研究費補助金交付内定一覧
10 学位授与
11 汕頭大学医学院 留学報告
12 入学試験・オープンキャンパス日程

■兵庫医療大学
13 国家試験合格に向けて
14 第5回 欧州研修報告
15 第3回 連携病院の会 合同病院説明会
平成24年度 科学研究費補助金交付内定一覧
17 入学試験・オープンキャンパス日程

■兵庫医科大学病院
18 平成24年度 運営方針説明会
病院活動費配分
19 地域医療・総合相談センター長 就任のご挨拶
看護の日 記念行事
平成23年度 がん予防功労者表彰

■ささやま医療センター
20 ささやま老人保健施設 お花見会
看護の日 記念行事

■学校法人兵庫医科大学
21 平成23年度決算について
23 開学40周年記念事業募金 ご支援・ご協力のお願い
厚生労働大臣表彰
講演会「東日本大震災に学ぶこれからの危機管理」
24 西宮キャンパス 津波災害対策マニュアル
クールビズの実施について
規程等の制定・改正・廃止
25 マスコミ・新聞等への出演・掲載情報

26 授業レポート
27 多彩人
28 最近の新聞記事より
30 7月、8月の行事予定
ご意見お問合せ

特集
開学40周年
座談会

兵庫医科大学の 思い出とこれから

平成24年、兵庫医科大学は開学40周年を迎えました。昭和47年4月に開校された兵庫医科大学は、昭和53年第1回の卒業式から、平成24年第35回卒業式までの40年間で3,567名の卒業生を輩出し、日本全国で同窓の友が全人的医療を担う良医として医療の中核を担っています。

今号では、開学40周年を記念し、それぞれの卒業年度で森村賞（兵庫医科大学を優秀な成績で卒業する者に贈られる賞）を受賞された4名の同窓生にお集まりいただき、在学中の思い出やこれからの兵庫医科大学について、中西学長と共にお話しいただきました。

井上 賢治 先生
平成21年 卒業（32回生）
兵庫医科大学病院で研修後、小児科のレジデントを経て現在は同科の病院助手としてご勤務。

大江 与喜子 先生
昭和53年 卒業（1回生）
現在は上ヶ原病院の病院長、西宮市医師会の副会長などの要職にある。
父・故森村茂樹氏は兵庫医科大学の創立者。

中西 憲司 学長
昭和59年、兵庫医科大学内科学第3講座助手として着任。その後、研究と教育に専念する為、免疫学・医動物学講座教授に就任。学生部長などを経て、平成22年4月第9代学長に就任。

伊藤 眞紀 先生
平成3年 卒業（14回生）
現在は塩野義製薬(株)で薬の安全性を評価する業務をご担当。さらに新しい知識を学びたいと、週1回兵庫医科大学病院の救命救急センターでご勤務。

都築 建三 先生
平成8年 卒業（19回生）
卒業後、アメリカ留学や市中病院勤務などを経て平成18年より兵庫医科大学病院 耳鼻咽喉科勤務。現在は同科講師としてご活躍。

学生時代の思い出

大江: 1期生なんてめったになれないと思うんですが、そこが魅力で入学したということもあって、小さいことだけど、化学の実験器具などが全て新しくて、そういうことにワクワクしたという思い出があります。クラブもなくて、皆でとにかく何か作ろうよ！と私も4つほどクラブを掛け持ちしていました。とにかく皆がクラブの基礎を作ろうということでやっていましたね。大学祭も1年目からはじめて…。施設もまだできていない頃なので、武庫川の河原の場所取りをして、体育の授業のソフトボールをやったり、場所が取れなかったらランニングだけとか、そんなこともありましたね。

学長: 今とはやっぱり隔世の感がありますね。

大江: そうですね。入学当時は2号館と4号館、5号館、6号館はありましたけど、1号館はまだなかったですし。今は施設も充実していてとても羨ましいですね。

学長: 兵庫医大を語るときに外せないのが、森村先生の先見性だと思うんですね。僕は兵庫医大の前にNIH（アメリカ国立衛生研究所。医学研究の拠点機関）で研究していたんですが、兵庫医大の共同研究施設も設備が負けていなくて驚きました。NIHでやっていたような研究は兵庫医大ではできないだろうと思っていたのに、向こうでの研究をそのまま続けることができたんです。そしてオペレーターもいて、実験器機がいつでも使える状態にあって、それらが故障したりすると職員が夜中でも修理に来てくれたんです。こんなに研究のしやすい環境はないなと思いましたね。それはやっぱり創立者の森村先生の精神が入ってるのかなと思いますね。

大江: 創立者は、皆が惜しみなく研究ができる場を作りたかったんだと思います。

伊藤: 私は大阪大学 医療短期大学部 看護学科（現保健学部）を卒業して、兵庫医大が2回目の大学だったので、医学部というところがとても楽しかったですね。高校を出てからかなり経つので、物理や数学なんかが大変で、物理の先生に毎週補講をしてもらっていました。あと私は1年生～2年生の間に出産をしたのですが、子供が生まれた後、所属していたアーチェリー部では皆が子供をあやしてくれたり、何かあれば家まで送ってくれたりと、とても親切にしてもらって、今でもいい友達を持ったなと思います。

都築: 僕は高校まで愛知県で、大学から兵庫医大に来たので、まず関西弁に大きなカルチャーショックを受けました。僕は三河弁だったので、こっちの言っていることも分かってもらえなかったし、関西弁も6割くらいしか分からなかったですね。あと、僕の誕生日が昭和46年11月12日で、兵庫医大の創立記念日と10日違いということもあって、大学には非常に愛着があります。学生時代は、勉強はどうすれば要領よくできるかを試行錯誤しながらやったりしていました。臨床の授業がとても楽しかったですね。基礎の授業でも図書館に行って色々なことを調べて新しい発見ができるというのが楽しかったです。ポリクリ（ポリクリニック：医学部高学年における病院実習）でも臨床の先生に親切に教えていただいて、バックアップしていただいたことが印象に残っています。ちょうどポリクリの時に阪神・淡路大震災が起きて、兵庫医大の図書館も散々な状況になっていたのを覚えています。

学長: 重い本が図書館いっぱいに散らばっていたのを、学生たちが一生懸命整理してくれて、非常にありがたかったです。

都築: 震災のあとは、授業にもならないので、先生について薬を避難所になっている小学校に届けに行ったり、そういうことのお手伝いもしました。

学長: そのころに免疫の授業を持っていたけれど、一生懸命大学を復旧してくれている学生の姿を見て、授業で学ぶ以上のことを学んでくれたと思いました。その時の精神を受け継いでボランティアクラブのWITH YOUができて、僕が学生部長になったときには、これまで運動クラブ活動の優秀者を表彰していた学生部長賞に、まず一番にWITH YOUを選んだりもしたんですよ。

井上: 僕は臨床家になりたくて医学部に入ったのですが、解剖の授業なんかは医学部でないと絶対にないことなので、そういう機会を大切にしていました。2年生以降、試験がとにかく多くて、僕の学年は3年生くらいの頃には皆で一緒に頑張って国家試験に合格しようという風潮が出てきて、その結果、僕たちの学年が初めて新卒の国家試験合格率100％を達成したんですよね。そういうのは、やっぱり一人ではなくて皆で頑張ろうという意識があったのかなと思いました。クラブ活動では空手部でキャプテンをしていたのですが、平成記念会館（体育館と大講堂）ができたときには新しい道場ときれいなサンドバックもつけていただいてとても嬉しかったです。園遊会の時には平成記念会館のステージで演武をさせていただいて、師範にも喜んでもらえてとても思い出に残っています。

現在の立場から見た兵庫医科大学

都築:今、大学で講義とポリクリで学生と接していますが、講義に関しては前の方に座っている学生はしっかりと話を聞いていますけど、後ろの方の学生は…。ただ、自分が学生だったときと比べると出席率もいいし、遠慮なく質問をしてくる学生も多いので、勉強熱心な学生が増えているようには感じます。ポリクリではなるべく楽しんでもらおうと、手術を見学させたり学生に声をかけたりしていますが、講義の時に教えたことを覚えてないことがあるのは残念ですね。ただ、理解力は良く、潜在能力は高いと思います。特に毎週テストがあるので、毎日しっかり勉強しているんじゃないかなと思います。あとは、ポリクリで飲みに誘ったりしても、私用を優先することもあって、そういうところは自分たちの時とは変わったなあと思ったりしますね。僕たちの時は、ポリクリのときにお世話になった先生によく飲みに連れて行ってもらったりしたんですが。

大江:上下関係が、昔に比べてクールになりつつあるのかもしれませんね。私の病院にも兵庫医大の学生がポリクリに来ていますが、ほかの大学の学生と比べて少し積極性がないかな？という印象があります。最近特にそういう傾向が強く、プログラムをきっちり与えておかないと動けないというか…。

学長:教員がサービス過剰なところがあるかもしれませんね。以前の試験は先生が独自の問題を出して学生が対策に苦労することが多くありましたが。兵庫医大の卒業総合試験が、予備校などの試験よりも国家試験の合格との相関が高いなど、内容がしっかりしているんです。

都築:僕も問題を作成しますが、兵庫医大の問題と国家試験の問題とがよく相関していて、学長が言われたように、兵庫医大の試験に通れば、国家試験にも通るだろうという感じですね。

大江:それはすごいですね。それは先生方の努力ですね。

学長:そうなんです。とても努力していただいているんですが、ただ、それに学生たちが甘えてしまうところがあると思うので、先生方には学生をもっと大人扱いしていただいてもいいかなと思います。今までちょっとサービス過剰かなと思うところもありますね。

伊藤:大学が予備校みたいになっているのはちょっと寂しい感じがしますね。先生が自分の研究とか、こういうのが面白いというのを、講義の合間にちょっと話されていたことが学生の気を引くというか、そんな面白いところがあるのかと思ったりして今でも記憶に残っているので、国家試験を通らないといけないというのはわかるんですが、大学の楽しみとか、もっと先のことを見据えて応用の利くように、数年たって役に立つというようなことを先生方に教えてもらったので、今の学生にもそういうことを学んで欲しいですね。

井上:確かに教授たちご自身がやられている研究や、どんなことを発表しているかというのはとても興味があるので、そういうお話を聞きたいというのはありますね。ただ、国家試験の勉強というのはそこまで深いことはやらず、まんべんなく広くやるということも必要なので、2つの視野から勉強することが必要なのかなというのは学生の時に友人と話をしていました。

学長:大学としては、本来はコアカリキュラム7割とあとは大学独自のもの3割でいいんですが、どうしてもコアに走りすぎて、国家試験に引っ張られてなかなか自由度がなくなってきてるんですね。ただ、いい学生が入ってきたら学生も我々も自由度が高まってくると思います。そういうレベルになればと思うんですが、兵庫医大は今そのレベルに近づいているところで、もう少し頑張ったら本当に理想的なバランスのとれた形ができるんじゃないかと思っています。学生たちも学生生活をエンジョイしながら、将来のことも考えて、ほかの学生と切磋琢磨しながらやっていけるんじゃないかと思うんです。

大江:あと、通り一辺倒な覚え方ではなく、原理が分かっていれば答えは出てくるはずなので、そういう覚え方を学んで欲しいなと思います。

伊藤:救急部のポリクリの学生も、与えられたことはきっちりするし、実習なんかは楽しそうにするんですが、逆に問いかけると何も応答がなかったりして、やっぱり受身の学生が多いかなという感じは受けますね。

学長:学生もだんだんスマートになってきて、苺なんかに例えると、以前は大粒・小粒が混じっていたけど、今はどの粒もいい粒でおいしいんだけど…。皆優等生になってしまって、彼らにはどこに行っても耐えられるような大物になってほしいですね。能力は高いんだけど、もう少し雑草というか純粋培養だけではない人もほしいなと思います。

大江:皆そろって国家試験に合格しようというのもいいことだけれども、それだけが目標というのではなく、幅の広いところも欲しいですね。実習に行ったら患者さんの病気のことだけ一生懸命習うんじゃなく、先生の人間性やどんな風に患者さんに接しているかというところをポリクリなんかでは勉強してほしいですね。

これからの兵庫医科大学に期待すること

伊藤:いろんなところで活躍してほしいですね。研究・臨床・厚労省の場もありますね。あとは製薬の場でも、兵庫医大からも色んな薬に対して興味をもって、薬を開発したり安全性を研究して、今の大学の先生方とコミュニケーションを取って、薬と医療というのを十分理解して社会に貢献していけるような幅広い医者になってほしいなと思います。

都築:僕も先生方が言われたように、幅の広い、大粒の図太い医者になって欲しいと思いますね。あと国際的なところが必要だと思います。ポリクリで海外に行き、いろんな医療圏に行ったりする連携ができたらいいなと思います。臨床だけでなく基礎の部門もNIH等を見学するなど、日本とどんなところが違うかというのを学べるようなカリキュラムができたらいいと思います。

学長:都築先生が言われたように、今はグローバル化しているので、世界的な判断力や価値観が必要だと思います。国際交流は日本の発展にも重要なことなので、アメリカとも太いパイプを作ろうとしています。留学生を送り込んだり単位互換もしたいと思っています。グローバルスタンダードにも対応できるように、できるだけ国際交流をして大学としてのアイデンティティーと誇りを持ってもらいたいなと。大学に対する帰属心、愛校心を持って、もっと世界に打って出てほしいですね。

井上:病気とか疾患の知識は当たり前で、僕は小児科なので特に子供への接し方とかを見ていると、人柄がでてくると思うので、そういうところにも気を使える人になってもらえたらいいなと思います。あとは、プレゼンテーションをしっかりできるようになってほしいと思います。プレゼンテーションが上手にできるというのは、疾患に対する知識がしっかりあるということだと思いますし、プレゼンテーションをたとえば英語でできたりするといいなと思います。

伊藤:中国や韓国では英語ができてあたりまえですからね。プレゼンテーションができるということも大切だけど、それに対する質問ができない人が多いので、質問もしっかりできるようになってもらえたらいいですね。

大江:先生方の言われるグローバルというのももちろん大切だなと思うんですが、兵庫医大には地域医療に携わっている親御さんをもつ学生が多いんですね。私は西宮市医師会の役員をやっていて、その親御さんの学生が兵庫医大を卒業して、違う病院の研修に行ったり、違う病院の医局に入ったりすることもあるのですが、兵庫医大で研修してその地域で開業すると、また兵庫医大とのつながりが深くなるんじゃないのかなと思うんです。卒後教育にも地域医療を見据えた教育をしてほしいと思います。あと、やはり西宮の医師会というのは地域に根差していて、信頼を持って患者さんを紹介して、そういうことがあって兵庫医大は成り立っているというのを理解してもらって、地域の先生方との連携を大切にしてほしいと思います。地元の人に愛されなければ、日本やましてやグローバルでというのも難しいと思うので、基本となる地元も大切にしてほしいと思います。

学長:今日は4人の世代の違う、森村賞を受賞した先生に集まっていただいて、大学への温かい励ましの言葉をいただき、その言葉を大学の教育にも反映させていきたいと思います。また、40年という節目に、卒業生皆が“HAPPY BIRTHDAY兵庫医大”という気持ちで40周年を迎えてもらえるのが大切で、今までの積み重ねの上にこれからの発展があるので、これまでの“絆”を大切にしていきたいと思います。また、40周年を機にアーカイブを作って、歴史をきっちり形にして、それを鏡にして、これからどのようなエネルギーに変えるかというところを、皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思っていますので、これからもよろしくお願いします。今日はありがとうございました。

最近の主な出来事

4月 April

2	■学校法人兵庫医科大学	入職式	215号に掲載
4	■兵庫医科大学	大学院入学式	
5	■兵庫医科大学	学部入学式	
6	■兵庫医療大学	学部・大学院 入学式	
9	■ささやま医療センター	期初管理職ミーティング	P5
11	■兵庫医科大学病院	市民健康講座『口が開かない！閉らない！』（歯科口腔外科 本田公亮准教授）	
15	■ささやま医療センター	ささやま老人保健施設 お花見会	P20
18	■兵庫医科大学	大学院 学位授与式	
19	■兵庫医科大学	医学・医療講演会	
25	■兵庫医科大学病院	市民健康講座『更年期とは何？』（産科婦人科 小森慎二主任教授）	
27	■学校法人兵庫医科大学	講演会「東日本大震災に学ぶこれからの危機管理」	P23
28	■兵庫医療大学	第3回　学校法人兵庫医科大学連携病院の会　合同病院説明会	P15

5月 May

8	■兵庫医科大学	汕頭大学医学院・留学成果報告会	P11
11	■兵庫医科大学病院	看護の日 記念行事	P19
14	■兵庫医療大学	兵庫医療大学募金協力者御芳名銘板　除幕式	P5
16	■兵庫医科大学病院	市民健康講座『足のうらのホクロについて』（皮膚科 中川登助教）	
17	■兵庫医科大学病院	運営方針説明会 平成23年度　病院活動費配分	P18
18	■兵庫医療大学	第5回 欧州研修報告会	P14
21～6/1	■兵庫医科大学病院	トライやる・ウィーク	P5
30	■兵庫医科大学病院	市民健康講座『「動脈硬化」って何？～どのように予防するの？～』（内科内分泌・代謝科 小山英則准教授）	

4/9 ■ささやま医療センター
平成２４年度 期初管理職ミーティング

新年度を迎え、新家荘平理事長、坂元譲次事務局長出席のもと「平成２４年度期初管理職ミーティング」を開催しました。福田病院長から「平成２４年度ささやま医療センター運営方針」が、続いて各部門長から診療支援部門、医療技術部門、看護部門、事務部門の方針が述べられ、ささやま医療センターの今期運営方針と事業計画の周知徹底が図られました。

5/14 ■兵庫医療大学
「兵庫医療大学募金協力者御芳名」銘板 除幕式

Ｐ棟セントラルオフィス前で「兵庫医療大学募金協力者御芳名」銘板除幕式が執り行われました。新家理事長、松田学長が挨拶をされ、新家理事長より「兵庫医科大学、兵庫医療大学の充実発展のため強いご理解と多大なご協力を賜り、心より御礼申し上げます。」と感謝の言葉が述べられました。

5/21～6/1 ■兵庫医科大学病院
トライやる・ウィーク

「トライやる・ウィーク」とは兵庫県下の公立中学２年生が地域社会の一員としてさまざまな職場体験を行うもので、本学では西宮市立鳴尾南中学校（５月２１日から２５日）、西宮市立学文中学校（５月２８日から６月１日）の中学生が職場体験をしました。病棟で配膳や環境整備などを体験し、少し緊張しながらも医療の仕事を体感しました。